

2005 (平成17年) 3月号

カルメル

# 霊性センターニュース

## 3月号



(デージ：英名)

和名：雛菊

マーガレットと呼ばれる

こともある、蕾と花冠の色が  
真珠（マルガリータ）に似て  
いることから、いつも顔を天  
に向けていたアンティオキア  
の聖マルガリータにも関連づ  
けられている。

花言葉(優しさ.無心.誠実な愛)

キリストと聖母マリアの紋章

(無垢.処女性)を表わす)

また春の訪れを告げる花で

あることから(復活)を象徴

NO. 197

## 「あなたは誰か？」

カルメル会 中川 博道

先日、あるカトリック高校の卒業生が、感謝ミサのために自分たちで選んだ、次の聖句を読んで、深く考えさせられました。

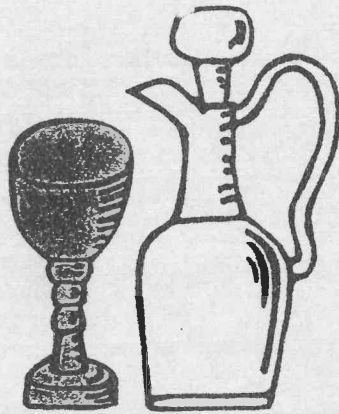
「現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないといわたしは思います。被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています。わたしたちも、神の子とされること、つまり、体の贖われることを、心の中でうめきながら待ち望んでいます。」(ローマ8. 18. 22, 23)

新しい人生の門出に、真の解放と自分探しを、うめき苦しみながらも、希望を持って見据えている確かな眼差しに出会った思いがしました。自分の青春時代に聞いた言葉が浮かんできます。「人生とは、何をやったかではなく、誰になったかが問題なのです。」自分の身分でも、役割でも、仕事でもなく「あなたは誰なのですか？」と問われること。自分の宗教でさえなく、ましてや、やってきたことや持っているものではない次元で問われる「あなたは誰か？」という問いがあります。

答えを探しつづけると、聖書世界の人々は、何度も、人生の旅の途上で、「わたしは必ずあなたと共にいる」と呼びかける神であるお方に出会いながら、真の自分を見出してきたように思います(cf. エレミヤ1. 4~8、イザヤ41. 13~14、43. 1~7.)。すなわち、自分の存在の根底を支えているお方を丁寧に受け止められるとき、初めて人は「真の自分」を見出しうるのです。同時に、わたしのために命をかけるお方イエスの同伴を受け入れることができる時、人は初めて真実の解放へと歩みだすことができるのです。

このお方に伴われて歩む旅路は、奴隷の地から解放の地へと私たちを過ぎ越させ、真の自分になっていく「復活」を実現するのだと思います。

心の泉





## 跣足カルメル在俗者会の会憲（7）

チプリアノ・ボンタッキョ神父

### 第4条

#### 聖母マリアとカルメル会

この会憲の“イエスの母と共に”という第5章において、もう一度聖母マリアとカルメル会について述べることとなりますので、今回はこの第4条の説明に話をとどめることにします。

カルメル山中に最初に集まった隠修士たちが建てた小聖堂をマリア様にお捧げしました。これをもって彼等は聖母を母また女王として選ぶとともに聖母のうちに彼等が目指していた生活の理想像を見ていたことを現しています。彼等が目指していた目標は“主に聞き従う生活”また“主と他の人々への使徒的奉仕の生活”でした。

つまり、彼等はまず聖母を観想者の典型的な手本として仰ぐことにしました。主の生活と業そしてそのことばを“心に収め、思いめぐらす”聖母、“肉となったことば”イエスに全生涯を捧げている聖母の姿は彼等の目指す観想的理想の具現とみなされていました。

また、カナの婚礼において主が命じられた通りに行うように勧めた時の聖母の行動において使徒的奉仕の手本を、さらに使徒たちと共に聖霊の降臨を願った時のマリアの姿のうちに祈りによる使徒的奉仕の手本を仰いでいました。

さて、この第4条の最後に“カルメル在俗者会の会員は母マリアの特別な保護を享受し、“真のマリア信心を培う”と書いてあります。この“特別な保護”とはカルメル会がその長い歴史を通して体験してきた保護であり、“スカプラリオ”の授与によって示されたものです。真のマリア信心とは、マリア模倣であり、またその保護に対する子としての完全な信頼を求めるものです。

### 第5条

#### 預言者エリアとカルメル会

カルメル山は預言者エリアの活動の舞台、また祈りの場所でした（列王記、上18章20参照）。カルメル会の起源の場所はカルメル山中にある“エリアの泉の”周辺でした。生ける神の観想者エリア、神の栄光のため熱心に燃え立つエリア、孤独と沈黙のうちに神を探し求めているエリアは、同

じような生活を目指していた最初の隠修士たちにとって強い魅力を引き寄せる預言者だったに違いありません。生活の場所としてエリアの泉の周辺を選んだことはそれを現していると同時に、カルメル会の召命の預言者的特徴を強調することです。

カルメル在俗者会員はまず自分の心や生活をはじめとして、この世を支配するあらゆる神々（エゴイズム、偽り、不正、憎しみなど）と対決し、この神々の被害者となっている兄弟たちの声となりながら、彼等の解放に努めることによって、キリスト教的な生活とカルメル会の召命の預言者的面を生きるように召されています。



## 断想（200）

### 万 象

八木重吉

人は人であり

草は草であり

松は松であり

椎は椎であり

おのおの栄えあるすがたをみせる

進歩というような言葉にだまされない

懸命に 無意識になるほど懸命に

各各自らを生きている

木と草と人と栄えを異にする

木と草はうごかず 人間はうごく

しかし うごかぬところへ行くためにうごくのだ

木と草には天国のおもかげがある

もううごかなくてもいいという

その事だけでも天国のおもかげをあらわしているといえる



## ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』(75)

### よく死ぬことができるように祈ること

多くの人が、「死は怖くないが、死ぬことが怖い」と言います。このことは、きわめて当然です。死ぬことは、しばしば病気や苦痛や隷属や孤独を意味するからです。

死ぬことを恐れることは、何も恥ずかしいことではありません。それは、あらゆる人間的な恐れの中でも最も人間的なものです。イエス自身が、そのような恐れに陥りました。苦しみ悶え、「汗が血の滴るように地面に落ちた」(ルカ 22:44)とあります。では死ぬことへの恐れに、どのように対処すべきなのでしょう。

イエスのように、私たちは祈らなければなりません。新しい命へ過ぎ越すために特別な力が与えられるよう祈らなければなりません。その時、私たちを慰めるために、神がイエスに天使を送ったように、私たちにも天使を送ってくださると信じることができるのです。

(0514)

### 愛は残る

死ぬ時、希望と信仰は共に終わりを告げます。しかし愛は残ります。愛は永遠です。愛は神から来て、神へと帰るのです。死ぬ時、私たちは人生において得たものを、愛を除いて、すべて失います。愛によって私たちは自分の人生を生きぬいたのですが、その愛こそ、私たちの内にある神の命なのです。それは、私たちの存在の、神聖にして破壊し得ない中核です。この愛は、ただ残るだけでなく、世代から世代へと実りを生むのです。

私たちが死に近づく時、後に残される人々に言いましょう。「心を騒がせないでください。私の心に住む神の愛は、あなたたちをおとずれ、あなたたちに慰めと安らぎをもたらすことでしょう」と。

(0517)

くのり 彰訳



四旬節第四主日  
光と命への召命  
(ヨハネ 9 : 1-41)

今日の福音では、生まれつき盲目の男が新しい道を歩み始めたそのときに、その目が癒されます。真の視力は信仰を得た彼にだけ与えられ、生きた神と真実とを彼にだけお見せになり、彼を信じるに到らせたのでした。前半の障害を癒したこと、また後半の法廷の場での審議、それらはイエスの意外なことばを導きます。イエスは世の光です。その男の信仰が彼を見えるようにしたのです。ファリサイ派の人々は見ることが拒みしました。彼らはすでに目が見えていませんでした。私たちが見えているときに、盲目の人が見るのを信じるのはたやすい事です。しかし、信じていないことを、いついだれが言い当てることができるでしょうか。

神を体験すること、また神に関することがらは、書物や講義などから学べるものではありません。人が神と向きあう必要があります。そしてそのような経験は心に刻まれ、その人自身と周囲の人々に影響や衝撃をもたらすことでしょう。これは盲目に生まれついた男の身に起きたことであり、イエスによって癒された話なのです。一度でも闇から外へ出たなら、自ら真理を経験したなら、キリストの新しい光を阻もうとする敵を、退散させるのです。そうです、それは、命の光を広めるためにすべてのキリスト者の姿勢でなければなりません。そのためにはまず、イエスと共に日々あることが求められています。

私たちは、またさまざまな形の盲目に苦しんでいます。その理由から、私たちには四旬節の悔悛と犠牲を捧げることが必要です。人には見えない良いもの、私たちの心の中にあるそれを、神は見えてくださいます。自己否定は私たちを美しくします。そして、神が見えてくださることで、盲目と闇の中にある私たちの生活の罪を、神がご覧になる良きもののようにと変えて下さるのです。

(Beatrice)

四旬節第五主日

信じる者の命であるイエス

(ヨハネ 11 : 1-45)

ラザロは文字通り救いがたい者でした。このことは、神がおられなければ人はまったく無力であることを示しています。イエスがいらっしやらなければ、頼る者のいないラザロは、生きかえることなどできなかったでしょう。ラザロのように人間は罪にとらわれていて、臨終に到る過程で病を得て、イエスの即座の直接的な救いが必要となるのです。人間には救い主が必要です。けれども私たちは、自らの罪深さやあやまち(失敗に終わるか少なくとも悪くなることを怖れるあやまちだったりしますが)、それらの汚点を取り去ることにしばしば躊躇します。私たちはあるがままに身をまかせがちです。しかし、私たちが生きなければならないなら、自己満足の墓場から抜け出さなければなりません。愛しつづける救い主であるイエスは、扉の外に立って私たちを今も呼んでおられます。その腕と足との布をほどいて復活の体験を準備するように、イエスは求めておられます。それぞれの墓から立ちあがって、復活によって新たにされた心を持って歩み始めましょう。

不滅が神とともにある命なら、もしそれが愛や命、真理に飢え渴く心を十分に満たすものであるなら、それは今すぐにも始められなければなりません。キリスト者は死をすべての終わりとはみません。キリスト者の死とは、新しい命の始まりなのです。

ラザロのよみがえりは、死が命に道を譲り、死が栄光のうちに終わるのです。私たちの復活であり命であるイエスに目を凝らすなら、それこそ私たち自身の固有の命を生きることになるのです。

(Beatrice)

受難の主日

苦難と成就

(マタイ 26 : 14 ~ 27 : 66)

イエスにとって従順とは、愛する父なる神の愛に従うことでした。この従順には、時間をおくことなく、怖れもためらいも疑いもなく、ただ無条件の、何にもとらわれない愛があるだけです。それは神によってもたらされるものです。この愛に対してイエスがなされたのは、それと同様どんな条件もつけずに、限りのない、何に遠慮することもなく、何にもとらわれないものでした。愛されたいがために父に自らを証明しようとする息子の英雄的な行為ととらえるなら、イエスがしもべとして痛みと苦しみとにご自身を捧げられたことを誤解することでしょう。さもなければ、尊敬すべき御父よっての命令が成就したと思ひ違いをすることでしょう。そうではなくて私たちはこれらの行為の中に、従順と至高の愛とを見出します。愛の使命には愛そのものの実践を、何ものにもとらわれない命令に対しては束縛されない受諾を。

イエスは死ぬはずであることを、完全に知っておられました。しかし、それほどまでにさし迫った死も、恐怖にも失望にもイエスを陥らせることはありませんでした。イエスは神と人との至高の契約に感謝を捧げたのです。多くの人々を救うことになる死の成就を、十字架によってあがなわれる罪のゆるしのために捧げられたのです。

イエスの受難は、歴史において不幸な出来事ではありません。それは、人には理解しがたい神のご計画の成就であり、ずっと以前から知らされていた事だったのです。神は意図せずして十字架にかけられたのではありません。神に望まれ、そして受諾されたのです。

イエスの受難を黙想するとき、単に人間的感情と痛みの次元に自らをとどまらせないでおきましょう。しかし、崇敬と感謝には、心とらわれるままにさせておきましょう。

(Beatrice)

復活祭  
最初の福音  
(ヨハネ 20 : 1-9)

ある高校生が書いています。復活祭の朝、レポートを書き上げた私は戸外へ出ました。教会の前を通り過ぎるとき太陽が昇ってきました。教会に反発する十代の半ばだったので、ミサに行く気などありませんでした。それが起きたのはそのときです。太陽の光が、教会の前にある銀の大きな十字架にさしかかったのです。私は目を離せなくなりました。その火の輝きのような光は、最初の復活祭に使徒たちが感じたに違いない思いを、私に思い起こさせました。経験したことのない大きな力が、私を教会の階段に押し上げていました。聖堂に入り、跪き、そして祈ったのです。人生で初めて、復活祭についてすっかり理解したのです。

事態は空っぽの墓に戻ったところから始まりました。師と仰ぐ人を失った悲しみに押しつぶされる中で、マグダラのマリアは奇跡を目撃しました。「墓は開け放たれ」、主はそこにおられなかった。驚き、これが最初の復活祭の出来事です。

もしあなたがキリストとともに復活するなら、そこでキリストは神の右の座についておられることでしょう。そうです。それが今日のメッセージです。私たちは敬虔なキリスト者として、イエスの死と復活とを信じています。しかし、私たちの信仰は、復活祭をただ単にキリストのでき事として記念するだけであってはならず、日々の暮らしの中で実を結んでゆかねばなりません。

イエスの復活をわちあうこと、それは聖パウロも言うように、まさに今、現にここで、自ら経験しなければならぬことです。イエスを通して明らかにされた神の約束は、私たちすべてに約束されたものです。私たちのだれもが、キリストの死によってもたらされた復活を否定できはしません。隠されていた新しい命を示し、世に私たちが信じていることを理解させましょう。

(Beatrice)

≪「教」から「伝」へ≫

カトリック教会用語には、「教」という字がやたらと目につきます。今挙げた教会という言葉にも「教」という字が使われています。「教会」を字の意味で見ると、「教えるため（教えられるため）の集まり」ということになります。他にも「教皇」というのは、「教えのための王様」でしょうし、「司教」は、「教えを司るもの」という意味になります。他にも、「宣教」というのも「教えを広めていく」という意味でしょうし、「教義」は「正（義）しい教え」ということになります。これ以外にも「教」がつく用語はたくさんあると思います。でもこの「教」というのは、学校教育などでもわかるかと思いますが、どこかに上下関係を意識させる言葉です。ですので、自分よりも知識や学力が劣る人に教えるという意味合いで使う場合が多いでしょう。そして、教えるというのは、「知識」を教えるという意味合いもあります。

でも、キリスト教というのは、人に教えることでしょうか？知識を教えることが、即、福音宣教になるのでしょうか？たしかに、他の宗教に比べて、要理、つまりキリスト教の基礎知識を知る必要があるという側面があることは否めません。しかし、それがすべてではありません。わたしたちにとって大切なのは、イエス様の教えをどのように生きていくのかということです。そこには、知識はあまり必要はありません。例えば、お年寄りが毎朝仏壇にご飯や水を供えて、祈るのは、知識から祈るのではなくて、その人の信仰心によって祈るものです。そのお年寄りに理由を尋ねても満足はいく理由を聞くことはできないでしょう。

そこで、一つの提案をしたいと思います。それは、「人に教える」のではなく「人に伝えていく」ということです。ですから、「宣教」というよりも「伝道」という方がよりふさわしいのではないかと思います。「伝道」は、「道を伝える」こと、つまり「イエス様の歩みを人々に伝える」ということになります。人に何かを伝えるというのは、たしかに多少の知識は必要かもしれませんが、それよりもその人の生き方、信仰生活を通して伝えるということです。先ほどのお年寄りの例だと、そのお年寄りが毎朝仏壇に向かって手を合わせている姿を通して、その人に仏様に対する信仰心が周りにあふれ出てきます。このあふれ出るものこそが、福音の源泉です。

わたしたちも聖書や要理の知識ではなく、イエス様の教え、イエス様がこの世の中で生きてきた生き方を、わたしたち一人一人が日常生活の中で生きていくことこそが求められているように思います。わたしたちが、イエス様の生き方にならって生きていくならば、周りの人もその生き方に共感し、またその人が少しずつイエス様の生き方にならって生きていくようになっていきます。この信仰の連鎖は、心の中からのものであり、けっして「教える」ことで、できるものではなく、「伝える」ことによつてこそできるものです。わたしたちも、一人でも多くの人にわたしたちの信仰を伝えていくことができれば、すばらしいものです。

## …ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

### 7. アヴィラのイエスの聖テレジア (1515-1582) —その5

アウマダのテレサ・デ・セペダは、1515年、スペインのアヴィラに生まれた。彼女は、最も高度な神秘的恵みを受けた真の観想者であった。彼女は師であり、その数々の著作は、現在にいたるまで靈感の源となっている。それらに匹敵するものはなく、彼女は教会博士の称号を受けている。『完徳の道』は、祈ることを教えるため、彼女に従う修道女たちのために書かれた指南書である。先の時代の聖人たちの祈りとは異なり、テレジアの祈りは、時々取り留めない状態になり、別の方向へと向かっていった。彼女の祈りに、他の考えが混じっているのはそのためである。あらゆる物事は愛するお方へと向かい、祈りはすべての物事の一部である。テレジアは、1582年10月4日にこの世を去り、教会は10月15日に彼女の記念を執り行っている。

#### —— 祈り ——

『完徳の道』より

おお主よ、今私は進んで自分の意思を——まだ我欲からすっかり自由になりきってはいないのですが——あなたにお捧げいたします。自分の意思を自分から進んであなたに捧げってしまうことから得られる益を、自分で感じ、体験してきましたから。……主よ、あなたが望まれるあらゆる方法で、み目が私のうちに行なわれますように、私の主よ。もし、試練によってみ目が行なわれることをお望みならば、私を強め、試練をお送りください。もし、迫害、病気、恥辱、困窮の生活によってなされたいならば、私はここにおります。わたしの父よ、私は、顔を背けたりはいたしません。(32:4, 10)

おお、何ということでしょう。なんと大きな御子の愛、そしてなんと大きな御父の愛！ でも、イエスさまについては、私はそれほど驚きません。なぜなら、「み目が行なわれますように」とすでにおっしゃった以上、御子として、その意思を実行しなければならなかったのですから。そうです、彼は私たちとは違っておられるのですから！ ご自身のように私たちを愛することによって、み目を果たすのだということを分かっておられたのですから、たとえこの掟を成就するためにご自身が犠牲を払わなければならなかったとしても、より完全にみ目を果たす方法を捜しつけられたのです。けれども、永遠の御父よ、それに同意なさったとは、どういうことなのでしょう

うか。どうしてこれほど悪い者の手の内に、毎日御子を見ることを望まれるのですか。すでに、あなたは、この悪い者たちの手の内に御子を見ることを望まれ、同意をお与えになりました。そして、彼らがどのように御子を扱ったかをご覧ください。あわれみのみ心のうちに、御子が来る日も来る日も侮辱されているのを、どうして今ご覧になっていられるのですか。……

ああ、永遠の主よ、なぜこのような願いをお受けになるのですか。……御子は、あなたのみ旨を果たすため、そしてそれを私たちのために行なうため、それと引き換えにご自分が毎日粉々に砕かれるままにしておかれることでしょうか。(33:3, 4)

「主よ、私たちに負い目がある人を私たちがゆるすように、私たちの負い目もゆるしてください。」けれども、主よ、私と共に歩んでいながら、このことを分かっていない人がいるのでしょうか。もしいるのなら、あなたの御名において、私はその人々に懇願します。どうか、このことを忘れないでください。そして、彼らが不当だと言っている小さなことを気にかけないでください。このような儀礼的な小さな行儀作法にこだわることは、子供のようにわらで家を建てようとしているようなものでしょう。おお、神が私をお助けくださいますように。姉妹たちよ、名誉とは何であり、名誉を失うとはどういうことなのかを、私たちが分かっているのなら！ ……

ああ、主よ、主よ！ あなたは私たちの模範であり、師であられるのですか。そうです、確かに！ それでしたら、私たちに名誉を与えてくださるあなたの名誉とは何だったのでしょうか。あなたは、死に至るまで辱められたがゆえに、名誉を本当に失われたわけではないのでしょうか。そうです、主よ、あなたは、名誉をすべての人のために、勝ち得てくださいました。(36:1, 3, 5)



*teresa de jesuf* (イエスのテレジア)

\* \* \* \* \*

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(浜田裕子訳・編)

## 神の掟と 私のおきて

もう今から20年も前のこと。私がフィリッピン・マニラのEAPI（東アジア宣教研修所）に行かせていただいた時のことでした。当時、参加者は約80人、神父様とシスターが半々位（ヨーロッパからきたり、現地出身の人だったり）と、それに信徒の少数が入っていました。7カ月間のコースなので、男性・女性の宿舎があり、食堂と学習の場は、全員一緒でした。何しろ、私は言語が不自由なので、自然に、視覚や推察力が発達し、今までの人生にとって、経験したことのない毎日を送っていたのです。

その時のこと、見たり聞いたりするなかで、驚くことが山程出てきました。

**その1** 食堂はレストランのように大きく、カフェテリア式で、順ぐりにお皿につけていくのです。突然、足がツルツと滑るので、アッ！あぶない！！と足元をみると、誰がコップの水をこぼしたのか、床一杯に水がこぼれているのです。（誰よ、一体。こぼしたら拭いとけばいいじゃない！！）と思うのですが、犯人は勿論誰だか分からない。でもこのグループの一員であることは確かなのに……

**その2** 女子宿舎の近く、戸外の一寸した、たまり場というか憩いの場というか、その場所に、夜になると南太平洋諸島からきた、黒い神父様とシスターのグループが、ギターやウクレレを伴奏に、いろいろな歌を歌い出します。夜の11時～12時過ぎ頃まで。ハーモニーはとても美しいのですが、明日の学習もあること。“ナンテうるさいんだ。この人達は時の観念とか、他人への迷惑など考えていないんじゃないか……”

この他にも驚きや咎める心<sup>とが</sup>がいろいろ出てきました。勿論その人達には、お人よし、とか美点も沢山あったのですが……

ある時期の講義は、「文化人類学」についてでした。宣教師にとっては、土地とそこに住む人々は、大切な要素になりますから。講義の先生は、その分野で知名度の高いオーストラリア人の神父様でした。豪快で朗らかで、冗談も沢山入り、楽しい雰囲気<sup>の</sup>の講義で、満場の人々はよく笑いました。残念なことに、私はよく分からないので、人につられて空<sup>から</sup>笑いをして場をくぐり抜けるという具合でしたが…こうして生活期間が長期化すればする程、珍<sup>ん</sup>なことを体験するので、私はいろいろ考えるようになりました。

“同じシスターなのに、どうしてシスターとしてのふるまいを何もしていないのだ



ろう。どうしてキチンとしないのだろう。日本人はあんなこと、しないよね。” などなど……

そこで私は勇気を奮<sup>ふる</sup>って、あの人類学者に質問してみようと思いました。でも英語で何といったらいいのだろう。胸がドキドキして何も言えなくなったら… しかしこんなチャンスは人生のうちでまたとないよね…

そう思って辞書を引き引き、質問文を書いてそれを見ながら話そうと決心しました。質問内容はこうです。

**質問** 修道者だったら、たとえ人種、国籍が違って、一定の品位を保つような、修道者らしい行動をとるべきではないか。(事例としてこの文面のその1, 2, みたようなものをあげる。)

神父様は暖かく私をオフィスに迎えてくれました。恐らく彼の暖かい人格が、私に素直に話させたと思います。……私のいうことは分かって下さいました。そしてカラカラ笑いながらおっしゃいました。

**答** シスター、南太平洋の人々は暑くて暑くて、夜、涼風が吹く頃、嬉しくて歌を歌いたくなるんだよ。南十字星の下、それで自由に神様を賛美するんだよ。隣の人のことなど考えていない。

人類で共通に守らなければならないものは、「神の十戒」しかないんだよ。それは神と人とを固く結ぶもの。しかしそれ以外のことは、十戒に入っていない。

……内心、私の内心の不満に同意を得ようと思っていた私は、見当が違ってしまい、ハッとしました。

---

地域性、生活環境、習慣(生き立ち、すべてを含む)、性格、価値観、文化的視野、それらは同一ではないのです。それらはその人のもの。……世界の人間は皆、そういうこと。

私は神父様の部屋を出てから、こんなことがグルグル頭を廻りました。そして、このことは日本社会だけをとっても言える、いや、家庭や修道共同体についても言える、と思うようになりました。

この体験で私がすべて清められたワケではありませんが、もっと広い視野からみることなんだ、ということに気づかされたのでした。

S r. 熊田 照子 (お告げのフランシスコ姉妹会)

# いのちの言葉

2005年2月

あなたの神である主を拝み、  
ただ主に仕えよ。(マタイ 4・10)

イエスはご自分の死と復活により、私たちを真の命、神との出会いに招き入れてくださいました。四旬節の間、教会は、私たちの人生がこの復活に向かう歩みであることを思い出させてくれますが、それは、砂漠の旅にも似た、困難と試練を伴う歩みです。

イスラエルの民が“約束の地”をめざして歩みをすすめる途中、自分たちの神を捨て、黄金の牛を礼拝した時があったのは、まさに砂漠でのことでした。

イエスも荒れ野で同じ歩みをたどり、サタンから、繁栄と権力を拝むよう誘惑を受けました。しかしイエスは、甘い悪の言葉を一つひとつきっぱりと退け、決然と“唯一の善なる御方”に向かいながら、こう言われました。

あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ。

私たちも、イスラエルの民やイエスと同様、より安易な道に引きずられる誘惑に、日々こと欠きません。自分の楽しみを求め、有能であることや美しさ、娯楽や物を持つこと、権威を頼りにするよう、いざなわれるのです。これら自体は悪いものでなくても、絶対的な価値を持ってしまう危険があり、社会の中では本当に偶像のようになっているのがよく見受けられます。

そして、人が神を認めず、礼拝しないときには、必然的に他の「神々」が神に取って代わるものとなります。星占いや魔術などを信じる人々が出てく

るのも、このためでしょう。

このような過ぎ去るものを求めても、私たちは満たされることがない、とイエスは教えてくださいます。すべての源である神の前に自分を置き、“創造主、歴史を導く方、私たちのすべて”でおられる神の真の姿を認めるときにこそ、私たちは満たされます。

天に向かって人生の歩みをすすめる私たちは、天では、絶え間なく神をたたえることでしょう。それなら、なぜ今から神をたたえることをしないのでしょうか。

時には私たちも「神を礼拝したい、心の奥深くにおられる神をたたえ、静かな聖櫃の中や聖体祭儀の中に生き生きと存在される神をたたえたい」という強い渴きを覚えることでしょう。

あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ。

神を「拝む」とは、どういう意味でしょう。

この態度の対象となるのは、神だけです。拝むとは、神に向かって「あなたがすべてです」と言うことです。これは「神よ、あなたは本当に神でおられます」と言うことであり、私たちは人生の中でこの神を知る、というすばらしいチャンスに恵まれているのです。

また、拝むとは、「私は無です」と付け加えることでもあるでしょう。これが口先だけにならないようにしたいものです。私たちは神を拝むために、自分を無にし、私たちの中、また世の中で、神が勝利を治めるようにする必要があります。そのためには、私たちが生活の中で築く危険のある“偽りの偶像”を、絶えず打ち倒さなければなりません。

しかし、“私たちが無であり、神がすべてでおられること”を、生活を通して証しするための最も確実な道は、決して否定的なものではなく、肯定的・

積極的な道です。たとえば自分の思いを捨て去るために、私たちは神を思い、福音に示される神の御心を自分のものにして生きることができます。また自分の意志を無にするには、毎瞬間示される神のみ旨を果たすよう努めます。不節制な愛情を消し去るためには、心に神への愛を抱くこと、また隣人の心配や苦勞、問題や喜びを分かち合いながら、相手を愛することで十分でしょう。

そして私たちが常に「愛そのもの」であるなら、気づかないうちに、自分自身は無になっていることでしょう。私たちは自分に無になることによって、神が私たちをはるかに越える方であり、すべてでおられることを、生活を通して証しすることができます。こうして私たちは、眞の意味で神を礼拝することになるでしょう。

あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ。

何十年も前になりますが、神を拝むとは“私たちの無を通して、神がすべてであると宣言すること”だとわかったとき、私たちは次のような歌を作りました。

「空の星が光を失い、  
毎日が過ぎ去っていき、  
海の波が消えて戻らないとしても、  
それは、  
神よ、あなたの栄光のため。  
すべての被造物は歌う。  
『あなたがすべてです。』  
そして、自らに言う。  
『私は無です。』」

私たちが愛ゆえに自らを無にしたとき、神が私たちの心に入ってこられ、私たちの“無”は、“すべて”でおられる神で満たされたのです。

★ いのちの言葉はその月の主日のミサで朗読される聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

ある日、仕事の面接に行きました。事前に「もう採用される人は決まってるのでは」「コネがある人が採られる」という噂があり、不安な気持ちでした。一緒にいのちの言葉を生きている仲間から「でも私たちに天の御父という強力なコネがある」と言われ、すべてを神様に委ねて行きました。愛するために行こう、それだけが残るから、と思いました。面接では、自分の有能さを見せるためとか、うまく答えられますように、ということに心を砕くのではなく、目の前にいる人たちを愛することに努めました。実際、あることを聞かれ、知らないことだったので、「分かりません」と答える場面もありました。後日した結果は、私は2番目だったので採用されませんでした。「み旨ではなかったのだ」と素直に受け入れました。2ヶ月後、その職場から電話で、「突然空気ができたので、まだ働く意思があるか」と聞かれました。今その職場にいますが、まさに「自分の能力で勝ち取ったのではなく、神様から直接いただいた仕事」として考えています。(A)

フォコラーレ

連絡先:03-3332-8460/03-3399-5508

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

いのちの言葉のホームページ

<http://www.geocities.jp/focolarejapan>

キアラ・ルービック

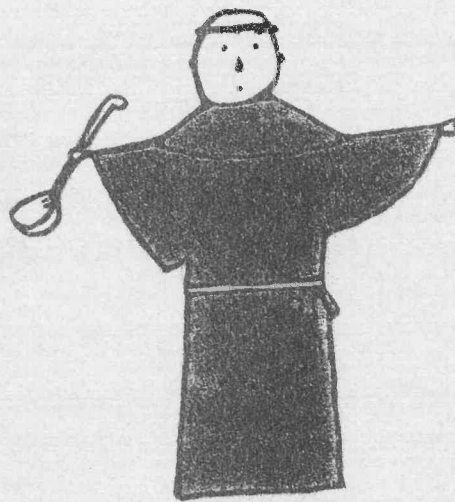
## 今日もご弥撒で

蛭田 幼一

今日ご弥撒の中で「典礼は恵みの泉」と言われました。「典礼は恵みの泉」いい言葉でございます。今日はこの言葉がじわっと心に滲みましました。私<sup>わたし</sup>めは祈りました、どうぞ会衆の皆さま方と心を一つにして、み主のみ栄えのために働けますよう。そのためのご聖体をと。今日のご弥撒もまたなくてはならぬものとなりました。いまでも胸に響いております「典礼は恵みの泉」。



# カルメル会の企画案内





カルメル修道会 シ 聖 毛 聖テレジア修道院 (黙想)

2005年1月～12月までの黙想会予定表

1. 聖書深読 (毎回土曜日 夕食～日曜日 16時)

- '05/3月19日～20日・・・奥村一郎師
- 4月23日～24日・・・カルメル会士
- 6月4日～5日・・・カルメル会士
- 10月22日～23日・・・カルメル会士
- 12月17日～18日・・・カルメル会士

2. 奉獻生活者のための黙想会

- '05/7月28日(木) 16時～8月6日(土) 朝
- 8月12日(金) 16時～21日(日) 朝
- 12月27日(火) 16時～'06/1月5日(木)

3. カルメルの聖人を見つめ靈性を深める

- (毎回水曜日 10時～16時)・・・九里彰師
- B・・・十字架の聖ヨハネ

3月23日

注:  で囲んだひにちは以前と変更になりましたのでご注意ください。

以下 '05年4月より毎回金曜日に変更(金曜黙想会)

A・・・大聖テレジア	B・・・十字架の聖ヨハネ
4月8日	5月13日
6月10日	7月8日
10月7日	11月11日
12月9日	06/1月20日
'06/2月10日	3月10日

4. 青年男女黙想会・・・九里彰師・神学生

- '05/ 5月21日(土) 16時～22(日) 16時
- 11月19日(土) 16時～20日(日) 16時

5. 大祭日のミサにあずかるために

復活祭 '05/ 3月26日(土) 夕食～27日(日) 朝食  
以上、チェックイン午後3時から。(講話なし) チェックアウト午前10時まで  
聖週間を黙想する '05/ 3月24日(木) 夕食～27日(日) 朝食  
(講話はありませんが木、金、土といつからでも参加でき、食事をご用意します)

6. 特別黙想会 伊従信子(N.D.V)

(夕食は済ませてご参加ください。)

- ① 05/5月27日(金) 午後8時～29日(日) 午後3時
- ② 10月28日(金) 午後8時～30日(日) 午後3時

7. 召命黙想会 カルメル会士

(夕食は済ませてご参加ください。)

11月4日(金) 午後8時～6日(日) 午後3時

.....

\* 電話でのお問い合わせは 午前9時～午後4時45分までをお願いします。

また、お申し込みは電話でもお受けいたしますが、間違いを避け、時間も問いませんので  
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願いします。(お返事は致します)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想) 担当 br 原

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

東京カルメル在俗者会黙想 場所：上野毛聖テレジア修道院(黙想)

'05/ 6月16日(木)～19日(日) チェプリアノ師  
8月24日(水)～27日(土) アロイジオ師  
9月29日(木)～10月2日(日) 九里 彰師  
11月 7日(月)～10日(木) 中川博道師

空きがある場合には、一般の方でも参加可能です。

TEL/FAX 03-3892-1378 阿部昌子



東京

## カルメルの霊性研究クラス

### \* 十字架の聖ヨハネ：『暗夜』

3月9日、3月30日。

(3月9日は、第2部第1章～4章を読む予定です。)

### \* アヴィラの聖テレジア：『自叙伝』

3月23日。

(3月23日は、第37～38章を読みます。)

なお『自叙伝』を読み終えた後に、アヴィラの聖テレジアの映画を見ることにいたしましたので、ご了承ください。

どちらも水曜日夜7：00より8：30まで、上野毛教会信徒会館2階26号室でおこなわれます。時々、都合により曜日を変えますので、ご注意ください。

## 祈りの集い

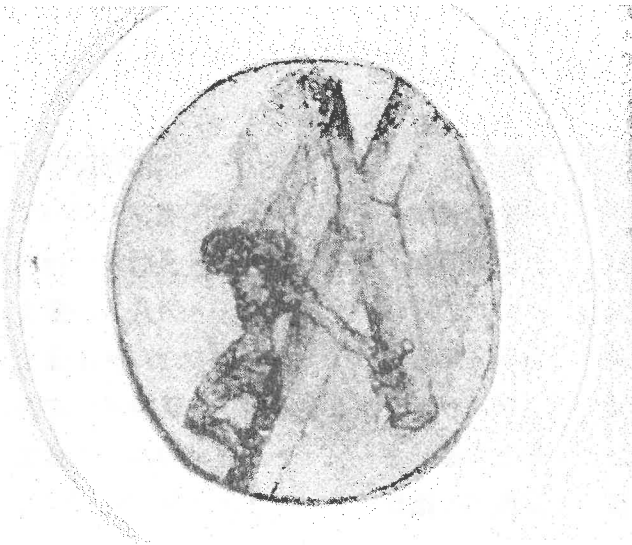
3月18日。

毎月一回金曜日の夜7：00より、上野毛聖テレジア修道院（黙想）小聖堂にて。都合の悪い場合は上野毛教会信徒会館ホールでおこなわれます。何の準備も要りません。

7：00～8：00 み言葉と念祷

8：00～8：30 分かち合い

[霊性研究クラス][祈りの集い]、いずれも申し込みは不要です。不定期の参加も可能ですが、「カルメルの霊性研究クラス」の方は、なるべく継続して出席されることが望まれます。



担当：<sup>くのり</sup>九里 彰神父

黙 想 会 案 内 (宇治カルメル会)

(2005年1月から12月まで)

聖書深読 (土曜日午後5時集合/日曜日午後4時解散)

- 05/ 3月12日~13日 奥村一郎神父
- 6月18日~19日 カルメル会士
- 11月19日~20日 カルメル会士

\*日帰り深読 (日曜日午前10時~午後4時)

- 4月24日 新井延和神父
- 9月11日 カルメル会士
- 12月11日 カルメル会士

\*ミニ深読 (火曜日午後2時~4時)

- 05/2月 8日 深読スタッフ
- 5月10日 深読スタッフ
- 7月 5日 深読スタッフ
- 10月18日 深読スタッフ

一般のための黙想

- 6日間の黙想 05/ 4月29日(金)夕~5月5日朝 福田正範神父
- 12月30日(金)夕~1月5日朝 カルメル会士

青年男女黙想会 (午前10時~午後5時)

- 05/ 4月17日(日).....カルメル会士・カルメル宣教会
- 11月 6日(日).....カルメル会士・カルメル宣教会

水曜一般黙想会 (午前10時~午後4時まで)

- 3月16日 復 活.....福田正範神父
- 4月20日 日本の神学.....奥村一郎神父
- 5月18日 聖霊の賜物.....長岡幸一神父
- 6月15日 イエスのみ心.....カルメル会士
- 7月13日 カルメルの祈り.....カルメル会士
- 9月14日 エディット シュタイン.....アロイジオ神父
- 10月19日 神との親しさ.....カルメル会士
- 11月16日 聖性への招き.....Sr. ペアトリス

**京 都**

- 12月14日 十字架の聖ヨハネ・・・カルメル会士  
四旬節黙想（午後5時～午後4時）  
05/2月12日（土）～13日（日）・・・福田正範神父  
待降節黙想（午後5時～午後4時）  
05/12月3日（土）～4日（日）・・・カルメル会士  
聖テレーズの黙想（午後5時～午後4時）  
05/9月30日（金）～10月1日（土）・・・伊従信子氏

**奉獻生活者のための黙想会（午後5時集合/午前9時解散）**

- 05/7月21日（木）～7月30日（土）・・・カルメル会士  
8月4日（木）～8月13日（土）・・・カルメル会士  
8月17日（水）～8月26日（金）・・・カルメル会士  
10月2日（日）～10月11日（火）・・・カルメル会士



その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

**申し込み方法**

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）  
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
TEL 0774-32-7016 FAX 0774-32-7457

# 「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

## ～都会の中の一日静修～ (2005)

この会は現代の忙しい社会の中であって、また都会の中であって、神さまとの静かなひと時を過ごすために企画しました。イエス様は「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ28:20)といわれました。

共にいるイエス様とのひとときを、都会の真中で過ごしてみてもいいでしょうか。

若者の召命、仕事の刷新、家庭生活の充実、老後のプランなどについて、

イエス様の言葉からヒントをいただきましょう。カルメル・ファミリーがお手伝いします。

第3回	3月21日(月)	「主の晩餐への道」	松田浩一神父
第4回	4月26日(火)	「ミサとわたしたちの召命」	松田浩一神父
第5回	5月24日(火)	「御聖体と聖母マリア」	中川博道神父
第6回	6月28日(火)	「聖マタイに聴く(2)」	松田浩一神父
第7回	7月18日(月)	「生ける水」	九里 彰神父
第8回	9月27日(火)	「十字架と教会の秘跡」	松田浩一神父
第9回	10月18日(火)	「主の食卓のグローバルゼーション」	福田正範神父
第10回	11月23日(水)	「主は皆さんと共に」	松田浩一神父

\* 時間 いずれも AM10:00～PM4:00

\* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線、日比野駅下車2番出口徒歩5分  
(駐車場は利用できません))

\* 持ってくるもの 聖書・筆記用具・ロザリオ・昼食の弁当

\* 定員 約15名 \*費用 1,000円

プログラム 10:00 祈り

10:45 講話 1

12:00～12:45 昼食

12:45～ ゆるしの秘跡または短い面接

13:30～講話 2

14:45～ミサ

15:30～茶話会

また空いている時間にゆるしの秘跡、短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記住所へハガキか FAX で、氏名・住所・TEL を記載の上、開催日の3日前まで必着のこと。なお、日比野教会で葬儀などある場合は中止となりますので、ご了承ください。

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝 4-5-17 TEL052-671-1003 FAX052-671-1825

カルメル会日比野修道院 一日静修係(担当松田浩一神父)

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。

### 3 京 都

3. 3月12日（土） 一場 修神父
4. 4月 2日（土） パトリック・オハール神父
5. 5月21日（土） 奥村 一郎神父
6. 6月 4日（土） 奥村 豊神父
7. 7月 9日（土） 奥村 豊神父
8. 9月17日（土） 奥村 一郎神父
9. 10月15日（土） 奥村 豊神父
10. 11月 5日（土） 一場 修神父
11. 12月10日（土） パトリック・オハール神父

場 所：河原町カトリック会館6階又は7階

費 用：各回2,500円（昼食代を含む）

時 間：午前10時～午後4時 持参品：聖書・筆記用具・ノート

申し込み・問い合わせ **（お申し込みは、各回3日前までに）**

〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル

河原町カトリック会館内 聖書委員会

TEL：075-211-3484 FAX：075-211-3910

### 4 名古屋

- 第1回 4月9日（土） 日比野カトリック教会 中川博道神父
- 第2回 5月28日（土）～29日（日） 宇治カルメル黙想の家 奥村一郎神父
- 第3回 9月17日（土） 日比野カトリック教会 中川博道神父
- 第4回 10月29日（土）～30日（日） 宇治カルメル黙想の家 奥村神父

\* 毎回、事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。

\* 原則として、定員21名とし、申し込みはファックス、葉書でお願いします。

\* コースは深読法を集中的に行う1日コースと、全行程を行う1泊2日コースがあります。

\* 対象は信徒、未信徒の別を問いません。

キリストの教えに関心のある方でしたらどなたでもご参加下さい。

連絡先：〒465-0058 名古屋市名東区貴船 3-2115 小林 厚

TEL/FAX 052-701-3685

## 5 横浜

### 一日コース

月 日	場 所	指導司祭
3月3日(木)	同 上	未 定
7月13日(水)	同 上	九里彰師
12月7日(水)	同 上	九里彰師

\* ザビエルセンター・・・横浜市中区滝之上

\* 時 間 10時～16時

### 一泊二日コース

月 日	場 所	指導司祭
5月14(土) 15日(日)	聖母の園黙想の家	新井延和師
10月	未 定	中川博道師

\* 時 間 14日13時～15日16時

\* 10月は未定です

連絡責任者 蜜本昌俊 TEL&FAX 045-621-5838

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

### 2 有光信子さんのグループ

参加者は「素読表」（B5あるいはその半分に、記号、全、及び思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解説はない。

費用：1回 300円 年 10回 3,000円

送り先：〒663-8033 西宮市高木東町31-20-504 有光信子

TEL/FAX 0798-67-8132

### 3 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrベアトリス指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srベアトリスまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

#### 聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srベアトリス

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

# カルメル会四旬節講話シリーズ

テーマ：祈ることの意味

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩5分）  
世田谷区上野毛2-14-25 カルメル修道会(TEL 03-3704-2171)

日時：下記の各土曜日 午後2時半開始（講話の後ミサがあります）

- 2月12日（土） 九里彰（カルメル会司祭）  
「現代における祈りの意味」
- 2月19日（土） 菊地達也（神田外語大学専任講師）  
「イスラームの祈りとはどういうものか」
- 2月26日（土） 奥村一郎（カルメル会司祭）  
「私はどう祈ってきたか」
- 3月5日（土） 三橋健（國學院大学神道文化学部教授）  
「神道の祈りが現代に問いかけるもの」
- 3月12日（土） 中山真理（ノートルダム・ド・ヴィ会員）  
「私はどう祈っているか」

## 【外部講師の紹介】

### 菊地達也

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程終了。イスラーム史研究者。

概説書シリーズ、マリーズ・リズン著「イスラーム」の翻訳者。

### 三橋健

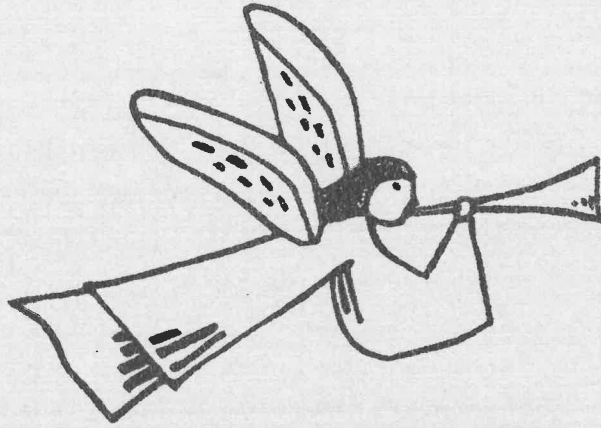
國學院大学大学院博士課程終了。神道学博士。「国内神名帳の研究」論考編・資料編、「日本人と福の神」、「わが家の宗教 神道」、「わが家の守り神」、など多数の著書がある。

### 中山真理

ノートルダム・ド・ヴィの会員。カトリック福音センター（京都教区）勤務。



## 諸所の企画案内



CWC (キリスト者 婦人の集い)  
リーゼンフーバ講座・集い・研究会  
真命山霊性交流センター  
三位一体の聖体宣教女会  
マリアの御心会  
心のいほり  
聖心会裾野修道院ヴィラ・フジ (黙想の家)  
コングレガシオン・ド・ノートルダム  
ノートルダム・ド・ヴィ  
朝日カルチャーセンター



## 諸所の企画紹介

\* CWC (キリスト者婦人の集い) 講師：九里 彰 神父 (カルメル会)  
2005.

会場：真生会館第一会議室

テーマ：教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的書簡

女性の尊厳と使命についてお話しします。

日程：1/18 (火) . (了) 3/22 (火) .

時間：午前10:30~12:00

4月以降は決まり次第本誌にてお知らせします。

\* リーゼンフーバー講座・集い・研究会の案内

キリスト教 金曜日18時45分~20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館  
入門講座 アルペホール。どなたでも聖書に基づきキリスト教の基本  
テーマを致します。

キリスト教：毎月第一・第二火曜日18時40分~20時30分

理解講座： 聖イグナチオ教会アルペホール。キリスト教の基礎知識  
のある方。(2年間コース)信仰理解と信仰生活の深まり  
を目的としキリスト教の中心テーマを探求

聖書研究会：木曜日12時40分~13時25分上智大学7号館316号研究  
室、学生のどなたでも。新約聖書を1章づつ読んで話し合います

座禅会： 月曜日 17時20分~20時10分 \* 木曜日18時20分~20時30分  
どなたでもどうぞ。初心者歓迎、遅刻、不定期の参加可。

接心： 2005. 2/26. (土)8:30~27日(日)16時 上石神井(5400)  
5/29. (土)13:~30日(日)16時 宝塚市  
7/31. (土)17:30~8/6(金)13時

黙想：毎月第2. 第4火曜日18:45 - 20:00： イグナチオ聖マリア聖堂  
水曜日 18:00~18:30： 上智大学内クルトゥルハイム一階右  
小聖堂 どなたでも

祈りの集い：下記土曜日 13:30~16:00 場 所：S.J.ハウス第5会議室  
講話、黙想、ミサがあります。

\*2005. 3/19

会社帰りの黙想：毎月第2. 第4火曜日 18:45~20:00  
聖イグナチオ教会マリア聖堂(中聖堂)

\* 以上、問い合わせ・連絡先：クラウス・リーゼンフーバー神父  
〒102-8571東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J. ハウス  
直通電話 03-3238-5124、5111(伝言)、FAX, 03-3238-5056

# 真命山の靈性

祈りの集い (毎月第二木曜日)

10:00 時～15:00 時



年間テーマ: ご聖体の秘義を深めて

- 1月 13日 ご語聖体と受肉の神秘(了)
- 2月 10日 ご聖体とキリストの隠れた生活
- 3月 10日 ご聖体とキリストの受難
- 4月 14日 ご聖体とキリストの復活
- 5月 12日 ご聖体と聖霊降臨
- 6月 9日 ご聖体は一致の秘儀
- 7月 14日 ご聖体は永遠の生命の宴
- 9月 22日 ご聖体・神の愛の啓示
- 10月 13日 ご聖体は過越の秘蹟
- 11月 10日 ご8聖体は神の契約の秘儀
- 12月 8日 ご聖体は教会と世界の完成

## 自然

神はすべてを作り、  
人の手に委ねられた

陽の昇るところから  
陽の沈むところまで

## 祈り

指導: フランコ神父  
シスターマリア

## 静けさ

沈黙の中に神の  
言葉を聞こう

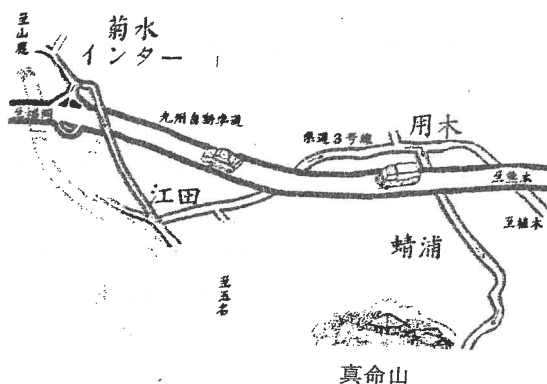
研修会

テーマ: 諸宗教対話とは

信仰体験を  
分かち

## 交わり

日時: 2005年5月13日(金)午後～15日(日)昼



865-0133 熊本県玉名郡菊水町蜻浦 1391-7  
☎ 0968-85-3100; fax 0968-85-3186  
e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

\* 三位一体の聖体宣教女会 東京修道院

場所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5

TEL.042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会：2004年～2005年

「聖書で祈る」：指導：雨宮 慧師（東京教区司祭）対象：一般信徒  
2005. 2月26日（土）5：30～27（日）4：00

\*\*\*\*\*

キリスト教講座 カトリックの教えを学びたい方

日時：毎週木曜日 10:00am～11:30am

十字架の使徒職の集い \*対象：信徒

洗礼よる司祭職に生き、司祭のために祈る

期日：第1グループ 毎月第2金曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

第2グループ 毎月第1木曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

両グループ\*司祭のために聖体礼拝を捧げます(1:30Pm～200Pm)

\* マリアの御心会

場所：〒160-0012 東京都文京区南元町6-2

JR信濃町駅下車徒歩2分

問い合わせ・申し込み：TEL.03-3351-0297 : FAX.03-3353-8089

E-mail midorif@jpc.apc-org

「来て・見なさい」 結婚・修道生活・独身生活を選定したい方。

2005年度

3/20（日）毎日の生活の中に神を探す

加藤信也師

\* 『心のいほり』

内観瞑想センター』代表 藤原直達神父（大阪教区司祭）

〒572-0001 大阪府寝屋川成田東町3-27

TEL/FAX 072-802-5026 携帯 090-2401-9374

活動内容。定期的に各地で内観黙想の同行指導と講演。日本的な瞑想法と、自己発見、癒しの方法としての内観瞑想の普及。同行司祭は藤原神父です。希望者は手紙かファックスで問い合わせてください。

電話では取り次いでおりません。

2005年度

1/10（月）2時～1/16（日）2時まで6泊7日 横浜・戸塚

2/7（月）2時～2/13（日）2時まで6泊7日 兵庫宝塚売布

2/20（日）2時～2/26（土）2時まで6泊7日 札幌厚別ベネディクト

3/6（日）2時～3/12（土）2時まで6泊7日 横浜・戸塚

4/3（日）2時～4/9（土）2時まで6泊7日 兵庫・宝塚売布

4/10（日）2時～4/16（土）2時まで6泊7日 京都・竜安寺

**聖心会裾野修道院 ヴィラ・フジ (黙想の家)**

〒411-1126 静岡県裾野市桃園198

TEL: 055-992-2120 FAX:055-992-2165

**一般黙想会**

テーマ:「自分探し」(2回とも参加できる方)

講師:近藤雅広神父(心のともしび運動)

① 2004年11月1日(月)午後1時より  
11月3日(水)午後2時まで (了)

② 2005年4月14日(木)午後1時より  
4月16日(土)午後2時まで

参考:「私は誰ですか」(近藤雅広著 天使院刊)にもとづく講話形式の黙想会

申込先:

〒455-0872 名古屋師港区西蟹田1833

聖心会名古屋修道院 Sr. 長谷川 和子

Tel:052-302-4385 Fax:052-309-1670

-----  
182-0034

東京都調布市下石原3-55-1

コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

黙想会係 Tel:0424-82-2012

Fax:0424-82-2163

一日黙想会のご案内

テーマ:主の祈り・イエスの祈り

指導:森一弘司教様

日時:5/8(日)10:00~16:30(受付・9:30~)

場所:コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院

対象:男女・年齢問わず、信徒、求道者の皆様

会費:2,000円 お弁当代含む

申し込み:5/1(日)まで 電話0424-82-2012

定員:80名(宿泊施設はありません)

\*当修道院は新宿より京王線で調布駅下車、南口から徒歩20分

タクシーで5分。下石原3丁目マルガリタ幼稚園とおなじ敷地内です。

すべての人のための祈りの集い  
いのちの光へ

— キリスト者としての成長をめざして —

**2005年**

3月19日(土) 十字架からの光 エディット・シュタインと共に

**スタッフ**

伊従信子

ノートルダム・ド・ヴィ会員

参加費200円

午後2時より 講話・祈り・分かち合い

午後5時半 ミサ(参加自由です)

**今後の予定**

4月23日(土) 弱さから信頼へ リジューの聖テレーズと共に

5月21日(土) かかわりの神秘 三位一体

6月11日(土) 愛にゆだねて リジューの聖テレーズと共に

お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail ndv-jp@r2.dion.ne.jp

カルメル会の霊性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

カルメル会聖テレジア修道院企画

## 特別黙想会

聖霊に導かれて：慈しみの愛

2005年5月27日（金）20時 ～ 29日（日）15時

指導：Sr. 伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）



「主よ、あなたの愛に生かされるために、  
あなたの慈しみ深い愛にわたしをささげます。  
あなたの中にせき止められた無限の慈しみの波を、  
わたしのうちにあふれさせてください。」



- \* 当日は20時から始まりますので夕食を済ませてお越しください。
- \* 持参するもの：筆記用具、洗面用具、パジャマ
- \* 参加費：¥12000（当日）

お申込み・お問い合わせ

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

カルメル修道会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764



# キリストに出会う

講師 カルメル会司祭 九里 彰

## 《講座のねらい》

現在、キリスト教の幼稚園や学校、病院や福祉施設などは、日本の津々浦々にまであり、何らかの形で相当数の人々がキリスト教との関わりを持っていると思われます。しかし、キリスト教に入信する人は、今なお多くはありません。それには、どのような理由が考えられるのでしょうか。

すぐに思い浮かぶのは、日本独自の長い宗教的思想的伝統であり、それに培われた文化生活形態でしょう。そのために、中近東、西欧というまったく違った土壌に発展したキリスト教は、日本人のメンタリティーには確かになじまないものがあると言えます。

しかしだからと言って、キリスト教は日本人にとってあくまでも異質なものととどまるということにはならないでしょう。今回の公開講座では、キリスト教の世界に入ってゆくということは、どういうことなのか、「キリストとの出会い」という観点から説明してゆきたいと思います。実際の話、二千年前、ユダヤの人々はどのようにイエス・キリストに出会っていったのでしょうか。このことを聖書の二三の場面を通して明らかにし、キリスト教の原点に近づいてゆきたいと思います。

通信講座「聖書に親しむ」を受講されている方は勿論のこと、聖書に関心ある方、今まで聖書を読んだことがない方のご参加もお待ちしています。(講師・記)

## 《講師紹介》九里 彰(くのり・あきら)

上智大学在学中、第9回サンケイ・スカラシップ奨学生としてミュンヘン大学へ留学。1997年カルメル会司祭となる。その後、アヴィラのカルメル会国際神学院およびマドリッドのコミッヤス大学で霊性神学専攻課程を卒業。訳書にH・U・フォン・バルタザール著『過越の神秘』(サン・パウロ)。

《日時》 2005年3月27日(日) 13:30-15:30

《場所》新宿住友ビル48階 朝日カルチャーセンター (裏面参照)

《受講料》 3,300円(税込み)

**【申し込み方法】**電話予約の上、郵便局備え付けの振替用紙をご利用になり、口座番号を「00150-6-87041」、加入者名を「朝日カルチャーセンター」とし、通信欄に「キリストに出会う」と予約番号、払込人欄にご自宅の住所、氏名とフリガナ、電話番号をご記入の上、受講料3,300円をご送金ください。振込票(受領証)は受講票として当日ご持参の上、教室前の受付でご提示ください。ご送金後から当日まで特別の変更がない限り、朝日カルチャーセンターから連絡は差し上げません。また、祝祭日を除いて、新宿住友ビル4階受付でもお申し込みいただけます。

**【お問い合わせ】**朝日カルチャーセンター通信講座課 Tel03-3344-2527(直通)  
〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル 私書箱21号  
インターネット情報接続先 <http://www.acc-web.co.jp>

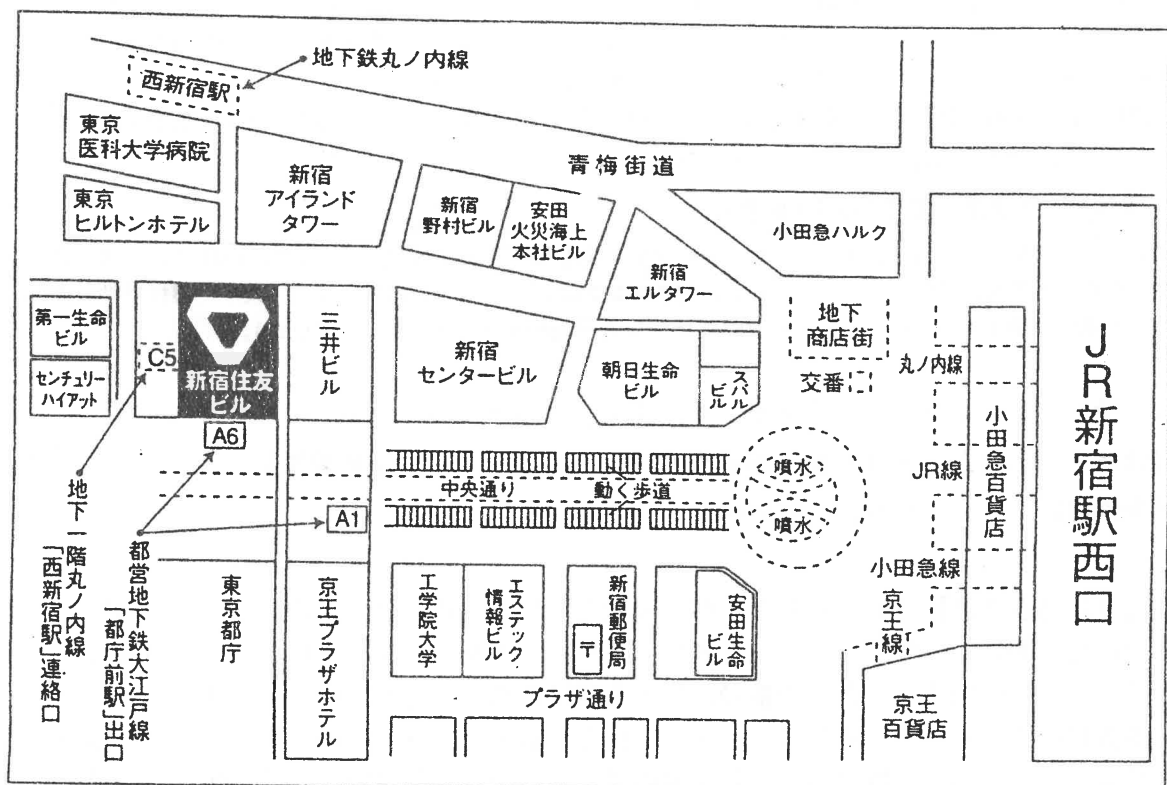
## 〈会場へのご案内〉

朝日カルチャーセンター（新宿住友ビル内）は、JR小田急線、京王線、西武新宿線など、いずれも「新宿駅」下車、新宿駅西口広場から徒歩8分です。また、地下鉄丸ノ内線「西新宿駅」から徒歩5分、都営地下鉄大江戸線「都庁駅前」から徒歩1分のところにあります。

新宿駅からお越しの場合は、地上の道路よりも地下道からの方が分かりやすいです。

### ※ 地下道からの道順

JR「新宿駅」地下改札口を出て右側に、小田急エースに沿って地下道を真っ直ぐ歩くと、そのまま地上に抜けます。右手2つ目の銀白色の高層ビルが新宿住友ビルです。



## カルメル会の出版物のご案内

雑誌「カルメル」No.314 (2004年秋号)

### 「今日の靈性」

祈り (8) …チプリアノ・ボンタッキョ  
十字架の聖ヨハネのとらえた「自由と解放」(3) …九里 彰  
カルメルの馨り (1) —カルメル日本宣教の根底史 (1562-1951) …大瀬高司  
イエズス 私の最愛のお方 思い出してください(12) …ペトロ・アロイジオ  
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(6) …伊従信子  
神の訪れ、喜びの輪の誕生 …高橋重幸  
三位一体のエリザベット(7) —愛に生きる …伊従信子  
巡礼者 —心の旅 …ユージン・マッカーフリー  
ガラスの心と柔らかな心と …森 みさ  
出会い—修道生活きのうきょう—(8) …奥村一郎

雑誌「カルメル」No. 315 (2004年冬号)

### 「今日の靈性」

聖体 —キリストの過越の神秘 (最終回) …高橋重幸  
姦通の女に対する「イエスのまなざし」 …九里 彰  
祈り (9) …チプリアーノ・ボンタッキョ  
カルメルの馨り (2) —卒啄不同时 カルメルの知られざる日本宣教 …大瀬高司  
イエズス 私の最愛のお方 思い出してください (13) …ペトロ・アロイジオ  
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(7) —人々の渇きに応じて …伊従信子  
祈りに関する一考察 …シスター・ベアトリス  
三位一体のエリザベット(8) —キリストの苦しみを身におびる …伊従信子  
仏教者の作品に見られるキリスト教 —『歎異抄』 …谷口正子  
出会い—修道生活きのうきょう—(9) …奥村一郎

\*年5冊(春夏秋冬号+特集号)会員頒布価格：3000円(送料込み)

郵便振替：00190-4-195457

跣足カルメル修道会

(どなたでもご購入できます。電話でのご連絡は、事務担当竹田：TEL03(5706)8356迄。)

### 「カリットへの旅 —カルメル会の歴史」

P・T・ロアバック著、女子カルメル会訳、男子カルメル会監修、  
2003年、サンパウロ、定価(本体2500円+税)。

### 「十字架の聖ヨハネ詩集」

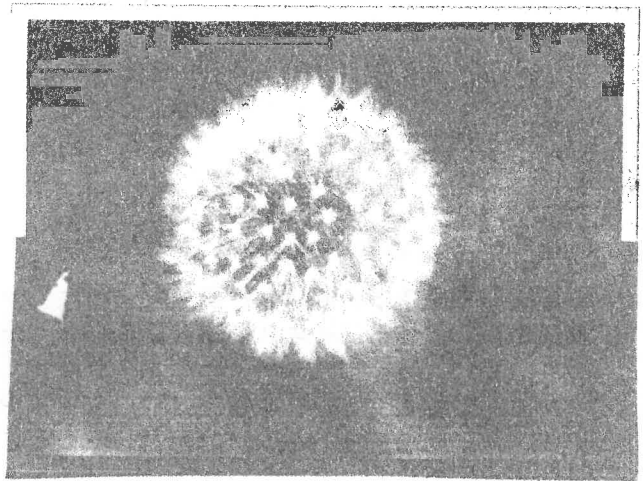
ルシアン・マリー編集、西宮女子カルメル会訳注、2003年、新世社、定  
価(本体2000円+税)。

# 新刊紹介

丸山テレサ著 『癒しの小箱』

サンパウロ、2005年、1500円(+税)。

男の子はきれいな目をしっかり見開いて、小さな小さな綿毛を、空気の中に見失わないように、見つめ続けて、追いかけています。やがて、綿毛は地面に落ちたようです。男の子はしゃがみこんで、地面を見つめて、まだ綿毛を探しています……。 (本文より)



本書は、数年前からこの『カルメル靈性センターニュース』に原稿を投稿され続けておられる丸山知佳子さんの初めてのエッセイ集です。2001年の夏から昨年の秋までの26編と、この本のために新たに書き下ろされた9編の合計35編のエッセイが載っております。

本誌に掲載されたものも、加筆修正されています。以前から本誌を読み続けておられる方には、なつかしいエッセイとの再会であり、最近本誌を手にしておられる方には、丸山さんの過去のエッセイと今、出会うことができます。

やさしい気取らない文体で、私たちの生活に密着した事柄を描いている丸山さんのエッセイには、忙しさに追われ自分を見失っている私たちに、ほっと一息つかせてくれるような癒しのひと時をもたらしてくれることでしょう。信者の方はもちろん、信者でもない方にもお勧めできる信仰の本だと思います。

## [著者紹介]

神戸に生まれる。カトリック信者。英国ウエールズ大学大学院博士課程終了。2001年に癌告知を受ける。現在、日本の医療教育機関で生命倫理・生命論を教える。

リーゼンフーバー神父 キリスト教入門講座 2005～2006年 No.2

日時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会 (四谷駅前) 信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

各回のテーマ

- 4/ 1 信仰の道—人生の意味を問う
- 4/ 8 人生の道しるべ—聖書に信仰を求める理性
- 4/15 聖書の間人像—人間の現状と使命
- 4/22 旧約聖書の神体験—聞くことと見ること
- 5/ 6 神認識の道—理性と経験を通して
- 5/13 創造された世界—人間存在の根拠と自然の意味
- 5/20 歴史と信仰—神と人間との出会い
- 5/27 新約聖書の神理解—主なる父
- 6/ 3 祈りによる神理解—神の偉大さと近さ
- 6/ 4-5 ●黙想会
- 6/10 救い主の役割—人類の待望
- 6/17 神の国—イエスの告げるメッセージ
- 6/24 イエスの生き方—神に遣わされて人に仕える
- 7/ 1 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に
- 7/ 8 イエスは誰か—イエスの自己理解
- 7/15 最後の晩餐—自分を与えるイエス
- 7/22 イエスの受難—その史実と意図
- 7/23 感謝のミサ (14時、上智大学内クルトゥルハイム2階)
- 7/29 イエスの死—その救済の意味
- 8/5, 12 ○休み



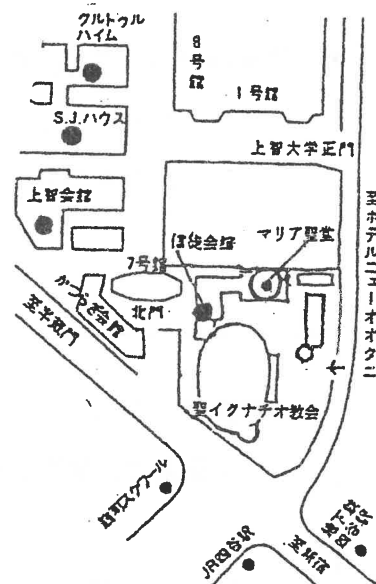
リーゼンフーバー神父 キリスト教理解講座 2005～2006年

日時 第1・3・5 火曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会 (四谷駅前) 信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

毎回のテーマ

- 4/5 [倫理の基礎づけ] 人格の尊厳—自立と自己実現
- 4/19 神の似姿—自己超越と善なる神
- 5/17 人生の目標—幸福と神への奉仕
- 5/31 人間以外のものの意義—世界の使用と聖化
- 6/4-5 ●黙想会
- 6/7 創造と救い—イエスのまねび
- 6/21 [倫理的行為] 善さの規範—人間の本性と神の法
- 7/5 人間的行為—自由と良心
- 7/19 性格の形成—徳と感情
- 7/23 感謝のミサ (14時)
- 8/2 お休み



## 投稿について

**投稿くださるときには、次のようにしていただくと幸いです。**

- \* **締め切り** 原則的に毎月10日まで
- \* **原稿サイズ**：B5 左右の余白：最低15mm  
**打ち直しの必要がないよう、サイズをお守りください。**
- \* 「心の泉」のコーナーについては、  
随想、こぼれ話、書評等。「断想」、「陽あたり」等、小題をつけて。
- \* 「諸所の企画」のコーナーについては、
  - ①主催するグループ名もしくは個人名を明記。
  - ②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
  - ③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。
- \* 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただくことがあります。また紙面の都合上、全体を打ち直し、詰めさせていただくこともあります。あらかじめご了承ください。
- \* 寄稿連絡は、九里<sup>くのり</sup> 彰神父宛にお願いいたします。  
〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル会修道院  
Tel(03)3704-2171 Fax(03)3704-1764

「霊性センターニュース」をご希望の方は、

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。

佐々木茂子 〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾 4-21-11

Tel (045) 575-5722

## お 知 ら せ

\* **E-mailの投稿**も受けつけます。

[seminary@carmel-monastery.jp](mailto:seminary@carmel-monastery.jp)

\* **「読者の声」の欄**を設けます。日頃感じていること、本誌に対する感想などをお寄せ下さい。郵送、ファックス、e-mail等で。

\* **「霊性センターニュース」への献金**の窓口が変わりました。

郵便番号口座：00110-4-297250

加入者名：カルメル霊性センターニュース

通信欄に「霊性センターニュース」への献金とご記入ください。

振込用紙が必要な方は、ご請求下さい。お送りいたします。



### 編集後記

現代日本人の大半は、「死んだら終わりだ」とみな考えているように思う。だからこそ、「生きているうちに自分のしたいことをできる限りやっておかなくては」ということになるのであろう。

だがその場合、努力のすべては、自分を中心に展開していくのではなかろうか。もし自己の欲求の充足・願望の達成が、その人のすべてであるならば、他者とのかかわりは、彼の人生においていかほどの意味を持つのか。結局のところ、一切は、自分の幸せを実現するための一手段となるのではないか。またヒューマニズム、人類愛によって人との関わりが開かれたとして、この世ですべてが終わるならば、各時代を代表する人物は除いて、ほとんどすべての人の一生は、瞬く間に忘却の彼方に葬り去られていくのではないか。人類の理想を実現してゆくための、捨て石としての意義を見出すべきなのであろうか。

しかしながら、「永遠の命」との関わりの中で、過去現在未来のすべてのものがつながっていると信じることができるならば、事態は一変してくるであろう。そこでは、生きとし生けるものが、すなわち、一つひとつのもの、一人ひとりの存在が光り輝いてくる。一切のものがつまらないものではなくなる。皆が皆、神から尊い命をいただいていること、神の目には、かけがえのない独り息子、独り娘であること……。

(P. 九里<sup>くのり</sup>)

